



札幌地区
たより

TO

と

MO

も

NI

に

第43号

発行日：2012年7月12日

●発行責任者：札幌地区長 勝谷 太治 ●発行所：カトリック札幌地区／札幌市中央区北1条東6丁目

2012カトリック札幌教区宣教司牧評議会の開催

日時：2012年6月1日15：00～6月3日11：00

場所：札幌ガーデンパレス 4階 真珠の間

参加者：菊地司教、各地区長、司祭・修道者・信徒 合計34名

1. 開催の目的、意義

札幌教区の宣教司牧評議会が10年ぶりに開催されました。目的は教区ビジョンを振り返り、これからの私たちが目指す教会のあり方を考えることです。

15年前に教区宣司評が「札幌教区ビジョンと課題」という提言を地主司教に提出し、それを受けて司教は「教区ビジョンと課題に関する司教文書」を発表して、提言されたビジョンの実現を教区に呼びかけました。

札幌教区のビジョンとは、「**みんなで支え合い、みんなが伝え合う教区**」というもので、それはキリストの名のもとに集まる私たちが、互いに受け入れ合い、支え合い、そこで出会った福音を伝えていくという真の共同体へと成長していく姿を描いています。

このビジョンを実現していくために次の4つの課題に取り組むこととしました。

1. 共同体である教会
2. 共同司牧
3. 社会と共に生きる教会
4. 青少年

それぞれの課題について具体的な方策を提示し、短期・中期目標を定め、実現を目指すこととしていました。それは、司祭・修道者・信徒が一致してキリストを信じる者の真の共同体となり、キリストの姿を社会に証していくことを目指していました。ビジョンが示された当時は、新しい時代の教会づくりがはじまるという期待感を覚えています。

具体的な方策の実施については、地区ごとに事情もあったことから地区に委ねることとして、各地区がそれぞれに活動してきました。しかし、教区レベルの会議は開催されず、情報交換や共有の場もなく、いつしか教区ビジョンを話題にすることはほとんどなくなっていました。

しかし今一度、北海道全体の宣教司牧について真剣に考える時期にきています。北海道の教会は50年以上前に外国の宣教会や修道会が人も金も出して建ててくれました。やがては地元の人たちが教会を支えていくことを期待しましたが、思い描いた通りには進まず、司祭・信徒の高齢化と減少により各地で教会の維持が困難になってきています。



私たちは日頃、小教区や地区レベルでの活動が中心ですが、活動の根本である教区の宣教司牧ビジョンの現状について、あらためて共に振り返り、共に考えることが必要であることから開催されることとなりました。

2. 各地区からの報告（ビジョンの振り返り）

ビジョンに向けての取り組みは、宣司評で組織的に取り組んできた地区や、特にビジョンにこだわらず活動してきた地区もありました。しかし、地区ごとに違いはあっても教区ビジョンで示された課題に対する取り組みはそれぞれで行われてきており、各地区が歩んできた方向性は一致しています。また、司祭・信徒の高齢化・減少、財政問題、青少年への対応など共通の課題や悩みがあります。

（報告のまとめ）

1. 共同体である教会

- ・集会祭儀、典礼奉仕などを通して信徒の信仰・霊的養成は進んできている。
- ・家庭集会などで分かち合いを行ってきたが継続性に課題がある。
- ・信仰共同体の意識は浸透してきているが、宣教共同体としての実践は十分ではない。

2. 共同司牧

- ・各地区とも形態に違いはあっても共同司牧を行っている。
- ・奉仕者が固定化している。信徒一人ひとりが積極的に関わっていない。
- ・北見地区は財政を一本化し、地区全体でひとつの小教区のように連携している。

3. 社会と共に生きる教会

- ・様々な社会的活動が行われているが、活動のネットワーク化や周知に課題がある。
- ・大都市と地方では人的資源に差があり、地方では活動も限定的になる。
- ・「人頼み」の活動で地区的な広がり欠ける。

4. 青少年

- ・各地区とも重要な課題として取り組んでいるが、現実的には青少年は減少している。
- ・カトリック学校との連携を図ることが必要。



全体会議



グループ討議

3. 討議の報告

今回は討議に多くの時間を割きました。何かを決議するための討議ではなく、地区での様々な課題や現状報告、教区で取り組むことなどを自由に話し、今後の方向を模索しました。幅広く話し合いましたが、いくつかのテーマに分けて報告します。

◎教区のこれまでの取り組みについて

- ・ビジョンを示されたが、具体的な方策は地区に任された。地区間の情報交換もなく教区としての一体感に欠けていた。教区が具体策を示すことが必要だと思う。
- ・札幌で行われている社会的な活動（家庭支援センター、いのちの電話、ウエルカムハウスなど）の情報をき

ちんと伝えてほしい。活動を地方に広げられないか。

- ・教会は様々なボランティア活動に関わっているが、個人的な関わりが多く教会全体での取り組みとなっていない。教会としての限界もある。
- ・三者が対等な立場で協力して福音宣教を進めるということだったが、信徒は司祭に依存して自主性がなく、また司祭は信徒を自分のヘルパーのように扱っていた。三者は役割が違うが対等な立場に関わっていくことが必要。

◎教区ビジョンについて

- ・15年前の教区ビジョンであるが、今でも必要なことばかり。特に青少年に対する取り組みは最重要であり、いまからでも取り組むべき。
- ・新しい時代に合った新しいビジョンをつくるべき。説明されないとわからないものではなくて、誰もがわかって意欲を共有できる文言で書かれたビジョン。(新潟教区に学ぶ)

◎これからの教区のあり方など

- ・札幌教区は歴史的に6地区のうち5地区を修道会、宣教会が担ってきたが、修道会、宣教会とも余力がなくなっており、このままの体制を維持することは難しい。
- ・財政問題は避けて通れない。信徒がいて教会がしっかりしていなければ宣教もできないのではないか。理念ばかりでなく具体的な課題を洗い出して対策を考えるべき。
- ・地区間に格差があるのは仕方ないこと。むしろ地区の特長を生かして支え合うことはできないか。
- ・教会に人を集めることが宣司評の目的ではない。一人ひとりがキリストとともに生きることが目的。教会という組織で宣教するのではない。宣教の場は生活の中にある。
- ・信徒の使徒的活動により実りがあったものもあるが、小教区の中に信徒が成長できるプログラムをつくるべき。
- ・分かち合えない共同体には力がない。新しい形の分かち合いを導入しては。たとえば全道一斉に同じテーマとルールの下で話し合いを行ってはどうか。
- ・弱い立場の人と歩むのが教会である。教区で具体的な活動を掲げてほしい。また、差別的な言辞には特に気を遣うこと。

4. まとめ

三日間にわたる会議でしたが、参加者は真剣に話し合いました。ここに書かれた以外の話題も多く出ました。教区が正式な議事録を作成すると思いますが、まず地区のみなさんに報告するために記事として掲載しました。今回の会議は、何かを決定するのではなく、各地区が取り組んできたことや悩みを共有して、これからの北海道の教会の進む方向を模索することが目的でした。

札幌教区は、現在、司教座が空位のため教区の大きな方針を決めることができませんが、新しい司教様が任命された時に、これからの進む方向を見定める材料として提供できるということで、会議の成果はあったと思います。



(広報 能町浄彦)

菊地司教講話「新しい福音宣教と日本の教会」

1. 新しい福音宣教

今年の10月に「新しい福音宣教」をテーマにシノドス（世界代表司教会議）がひらかれますが、その準備文書のリネアメンタ（提題解説）にこう記されています。

「『人間は、たとえ私たちが福音を宣べなくても、神の憐れみによって、何らかの方法で救われるでしょう。しかし、もし私たちが、怠りや恐れ、または恥、あるいは間違った説などによって、福音を宣べることが怠るならば、はたして私たちは救われうるでしょうか。』なぜならば、それは福音の種が宣教者を通して実を結ぶことを望まれる神の召しだしを裏切ることになるからです。」



現代の日本社会において宗教は難しい立場にあります。その難しい状況にあっても福音宣教のために最善を尽くす義務が一人ひとりにあることを、まず確認しておきましょう。

福音宣教がうまくいかないのは、外的な問題に対応できていないからではなく、教会のあり方そのものに問題があるからです。本質は「私たちの語る言葉は希望に満ちているか。生きている信仰を伝えているか」ということです。また、共同体なしに福音は伝えられませんから、教会共同体のあり方を見直すことなしに福音宣教は先に進みません。

ヨハネ・パウロ二世は「新しい福音宣教」についてこう述べています。「新しい福音宣教は、最初の宣教をもう一度行うことでも、過去を繰り返すことでもありません。むしろそれは、変化する状況にこたえるために勇気を持って新たな道を歩むことです」

世界をキリスト教国と宣教地に二分する伝統的な考え方は限界があり、現代のキリスト教共同体をつくる基準になりません。今、新たに日本に宣教者として来たとき何から始めるかという視点で考えなければなりません。新しいことに挑戦していく勇気が必要です。

新しい福音宣教を必要とする領域は文化（世俗化の問題など）、社会（移住者の問題など）、マスメディア（価値観の問題など）、経済（南北の不均衡、グローバル化など）、科学・技術（生命の問題）、市民生活・政治と多岐にわたっています。

2. 生きた証しによる宣教

また、ヨハネ・パウロ二世は回勅で「最初の告知」の重要性を指摘しています。

「この告知は、それを受ける個人や人々の日常生活の中で行われるべきものです。その告知は、それを聞く人々に対する愛と尊敬を持って行われ、実用的で、その状況にあった言葉が用いられなければなりません。この告知によって、聖霊は宣教者とそれを聞く人々両方に働きかけ、交わりをもたらします」

最初にどのような形で福音を告げ知らせるかが大事であり、その告知は、個人個人ではなく、教会共同体としてどのように行うかということを考えなければなりません。その意味から、カトリック教育機関の存在は大きいと思います。幼稚園や学校で初めてキリスト教にふれる機会をもつのですから、そこで「最初の告知」を

どう行うかということはとても重要です。

福音宣教について一番大切なことは、パウロ六世の使徒的勧告「福音宣教」に記されている言葉「人類を内部から刷新する」だと思います。「神の御言葉と計画に背く人間の価値観、生活様式などを福音の力によって転倒させること」すなわち「文化を深く福音化する」ということです。「福音化」は、まず証しから入るべきです。証しはキリストの十字架における愛の証しにつながるものです。生きている証しがあって、次に教えがあります。

アジア司教協議会は30年ほど前から、アジアにおける福音宣教は「人生における物語の分かち合いを通じて、三つの対話「人々（特に貧しい人々）、宗教、文化との対話」を行うことを通じて宣教にあたる」ことを強調しています。自分の人生体験としてのイエスとの物語を語ることが福音宣教にとって重要であるということです。

3. 新潟教区の取り組み

日本のカトリック教会は、学校教育事業重視と都市部中心の教会建設により宣教に取り組んできました。新潟教区も農村部には教会がありませんでした。その農村部で多くの外国人（主にフィリピン女性）が農家に嫁いできています。このフィリピン出身の女性たちが中心となって共同体を生みだし、新庄教会の誕生に結びつきました。全く夢物語に思えた教会建設が、大きな力に導かれるように成し遂げられました。これはまさに神様が用意された「時」であると感じています。

新潟教区は今年10月に宣教百周年を祝いますが、百周年にあたり「教区宣教宣言」を発表します。教区全体としての福音宣教への取り組みの姿勢を文書で明示し、教区の共同体を構成する一人ひとりが、あらためて自らも福音宣教に取り組む意思表示を行えればと思います。また、教区全体の意識を高めることにより、小教区の育成に資するものと期待しています。

新潟教区は、最優先課題として次の三つを掲げております。

- A 世代や国籍を超えた交わりの共同体を構築する
- B 教区全体の情報共有のネットワークを生み出す
- C 継続した信仰養成を充実させ、成熟した信仰者への脱皮を図る

この課題を小教区で振り返り、教区の宣司評へ提言していただきます。それを受けて新たな課題を確定するとともに宣教宣言を作成します。宣教宣言は、A4一枚程度の簡潔でわかりやすいものにしますが、次の要素が含まれていることが望ましいと思います。

- ① まず自分たちの立場を明らかにする文章
- ② 大切にしている価値観や信じるところ、自分たちの存在の意味などの目的を明記する文章
- ③ 何をしたいのか、誰のためにするのかなど、行動を明確にする文章
- ④ 不足しているところや今後強めていかなければならない点について触れる文章

この宣教宣言にできるだけ多くの人に署名してもらって百周年のミサで奉献して、気持ち新たに宣教に向かおうと思っています。

この会議で、札幌教区の現実の中で、私たちは教会共同体としてどうあるべきなのかを話し合っていたきたい。



2012年度 札幌地区宣教司牧評議会の開催



日時：2012年5月27日（日）14：00～16：00

場所：カトリック北26条教会

【出席者】

司祭：勝谷地区長、上杉神父、今田神父、場崎神父

修道者：3名 信徒：29名

今年度の地区宣教司牧評議会が開催されました。昨年度より地区の活動はブロック中心に移行し、評議会は年に一度開催する総会的なものになり、行事報告・計画、予算決算の審議が行われ、いずれも提案通り承認されました。詳細は議案書を参照してください。



◎昨年度の活動の総括

- ・各ブロックでブロック会議が定期的に行われ、ブロック中心の活動が定着してきた。
- ・ブロックの活性化にともない「札幌地区」としての共同体意識が高まってきている。
- ・昨年の使徒職大会は国際ミサ・交流会にも多数の参加がみられたが、小教区での多国籍の方々との関わりについての取り組みが求められる。
- ・拡大評議会において、地区から諮問された3課題（①小教区の適性配置、②ブロック体制の見直し、③信徒の養成）について議論した。今後、企画推進会議や各ブロックで取り組みや話し合いを進める。

◎今年度の活動方針

- ・ブロック内小教区の適正配置の検討を継続的に行う。その取り組みは建物に配置にこだわらず宣教活動を通して模索する。
- ・実効性のある地区財政づくり
- ・これまで以上に地区活動をブロック主導で行う。ブロックからの声を地区に反映する。

◎今年度の主な行事

- ・第2期要理担当養成講座
- ・地区交流会の開催 女性の集い6/30 男性の集い1/19～20
- ・平和旬間7/7～8/15 平和講演会8/4 平和祈願ミサ8/15
- ・使徒職大会9/30 テーマ「新しい福音宣教」 講師：山浦玄嗣（ケセン語訳聖書著者）

◎その他

- ・英語ミサグループは教会のことを手伝いたいですが声がかからない、交流が必要。

2012年度 札幌地区行事予定表

(白丸=教区行事です)

No	行事名	期日	会場	実行委・作業部会	目的	対象
1	要理担当者養成講座	5/5土 6/9土 7/7土	北11条教会	要理WG	要理担当者(=同伴者)の養成 テキスト「キリスト教の輪郭」百瀬文晃神父	要理担当者 主任司祭推薦者
2	地区評議会(総会)	5/27日 14:00～	北26条教会	地区長 企画推進会議	2011年度の総括と2012年度基本方針	司祭 修道会 地区評議員
③	教区宣教司牧評議会	6/1金 ～3日	ガーデンパレス	教区主催	教区ビジョンの見直し	教区評議員
4	地区交流会 女性の集い	6/30土 10:00～ 15:30	北26条教会	女性の集いWG	地区内の女性の集い(気楽に交流) 「あなたは どう思いますか?パートⅢ」 場崎神父・勝谷地区長	女性信者 司祭、修道者 一般
5	典礼研修会 病者への聖体奉仕	7/14土 10:00～ 12:30	北11条教会	典礼WG	病者への家族以外の聖体奉仕者の研修会 講師 上杉昌弘神父 他	主任司祭の推薦者
6	人権フォーラム第5回	7/14土 14:00～ 16:00	聖ベネディクト・ハウス	社会委員会	「福島の子どもたちを守る会・北海道の一年」活動報告 矢内幸子さん山口たかさん	一般 信徒
7	平和講演会	8/4土 14:00～ 16:00	北26条教会	平和旬間実行委員会	「塹壕の聖母～平和への願い」 講師 場崎洋神父	一般(誘い合わせのうえで) 信徒
⑧	札幌地区カトリック高校生 夏キャンプ	8/		カト高 青年有志	カトリック高校生会主催の夏のキャンプ	高校生
9	平和祈願ミサ ・平和行進	8/15水 18:00～ 19:20～	北1条教会 大通公園	平和旬間実行委員会	平和祈願ミサ 平和行進 プロテスタント教会との交流	一般信徒
⑩	国際デー	9/23日 10:00～	北1条教会 聖園幼稚園	教区主催 うえるかむ・はうす	多国籍の人々との交流 Let's Get Together!	一般 外国人 信徒
11	侍者研修会	9/29土 16時～30日	藤学園	侍者研修WG	小学生・中学生・高校生の侍者研修会	小・中・高生 保護者も
12	札幌地区使徒職大会	9/29土 14:00準備 30日 9:00開場	藤学園講堂	当番 北11条教会 事務局	大会テーマ「新しい福音宣教」 演題「新しい酒は新しい皮袋に—今こそ生き活きたした喜びの福音を！」 講師 山浦玄嗣氏(ケセン語訳聖書)	一般 信徒
13	学習会	9月～10月 18:30～	聖ベネディクト・ハウス	社会委員会	「なぜ教会は社会問題にかかわるのか！」	信徒
14	市内合同墓参	10/21日 7/15日	白石墓地 円山墓地	墓参実行委員会	司教館行事 白石墓地 (里塚墓地) 円山墓地	一般 信徒
15	葬儀の奉仕者研修会	11/10土 10:00～ 12:30	北11条教会	WG	葬儀の司会者、侍者などの研修 講師 上杉昌弘師	葬儀の奉仕者
16	講演会	11/17土 14:00～	北11条教会	WG	テーマ「原発と私たちの生活」 講師 小野有五氏(北星学園大学)	司祭 修道者 信徒
17	人権フォーラム第6回	12/8土 14:00～	聖ベネディクト・ハウス	社会委員会		一般 信徒
18	地区交流会 男性の集い	1/19土 ～20日	北広島教会	男性の集いWG	札幌地区の男性が集い、情報交換と親睦を深める	信徒 一般
⑲	青年(高校生)エクス ポージャー	2/～		教区主催	現地でホームステイをしながら、交流を深める。	青年
⑳	全道カトリック高校生 練成会	3月下旬		協力:青少年委員会	全道カトリック高校生の練成会	高校生 青年

使徒職大会当番順 2012年：北11条 2013年：山鼻 2014年：円山 2015年：北26条 2016年：月寒

2017年：真駒内 2018年：小野幌・大麻 2019年：手稲・花川 2020年：北1条

合同墓参白石墓地当番 2012：北26条 2013：月寒 2014：北1条 2015：北11条 2016：山鼻 2017：北26条

祭具は司教館(事務局)が持参する。

マルコ神父様を囲む会に参加して

2012年3月11日

真駒内教会 杉野 直子

東日本大震災からちょうど一年目の3月11日、マルコ・アントニオ神父様を囲む会が北二十六条教会にて催されました。札幌教区サポートセンターの活動拠点である宮古教会の主任神父様です。現地の生の声をお聴きしたいと思い参加させていただきました。

マルコ神父様は穏やかで優しい笑顔がとても印象的でした。おそらく現地でも厳しい状況にありながらも、その笑顔でボランティアを暖かく迎え受け入れて下さっているのでしょう。

囲む会にはボランティアに参加された老若男女多彩な顔ぶれが勢ぞろい。その層の厚さにはびっくりしました。

会は皆で心をこめてのお祈りで始まり、その後懇親会へ。神父様方や実際に活動された方のお話をお聴きして、被災地と北海道をつなぐまでのご苦労や熱意、そして次第に信頼関係が熱く太く結ばれていくさまを感じ取ることができました。

ボランティアに参加された方の話では、実際に現地に入り込んでみないと気づかない事がたくさんあり、新たな提案やアイデアが生まれているようです。「一人でも多くの方に参加して体験してほしい」とのお話がありました。実際80歳を超える方も参加されたそうで、被災者のお話の聴き役をなさっていたとの事でした。(す



手稲教会でのミサ

ごい!)そして、これからもボランティア活動は継続していくとのこと、その必要性は形を変えながらさらに高まってくだろうと感じました。

しかし私はなかなか参加するチャンスに恵まれず、もどかしく思う事もあります。今回強く思ったのは、実際に行かれた方のお話をもっとお聞きして思いを共有したいという事です。そして事実を真摯に受け止め、何かお手伝いできる事を探して、少しずつでも祈りをこめて捧げていけたらと思いました。



マルコ神父様を囲む会
(北二十六条教会)

編集後記

28年前に日本の司教団が「日本の教会の基本方針と優先課題」を発表し、福音宣教推進全国会議(NICE)を経て16年前に宣教司牧評議会が誕生しました。10年ぶりの教区宣司評の開催で、これまでの地区の歩みを振り返ることができました。同時に、自分がどう歩んできたかを思い起こしました。また、これからどう歩いていくかを考えました。全ては神様が導いてくださいますから、前を向いて歩いていきましょう。(K. N)